

2015年11月22日礼拝メッセージ

主題：「苦しみの中にいる人を思いやる」

聖書箇所：ヤコブ4章

先日、シンガポールに行きました。信仰の自由のない世界からきたキリスト者たちとの交流をし、日本の教会が何を、どう支援するかということのために情報を収集しに行ってきました。世界には「イエスを信じる」、すなわち「迫害を受ける」「殺される」ということを意味する国々が今もたくさんあるのです。私たちの国、日本は1%未満のクリスチャン人口とはいえ、信教の自由がある分、非常に恵まれているのです。

そこで出会ったアラブ世界のクリスチャンたちに聞きました。今までどんな人がその地域で用いられてきたのですか？彼らの答えはこうでした。「30年前は、アヤトラ・ホメイニ。現在はISISイスラム国です。」

理由はこうです。彼らの出現とイスラム原理主義による政教一致政治によって、多くの人々、特に女性がその地位を低くされ、教育の機会を奪われ、家庭に閉じ込められました。多くの人権は侵害され、自由な思想の表現も制限されました。

しかし、そのような中で人々は、自由とは何か、幸福とは何か、愛とは何か、について考えるようになり、かえってイスラムの枠の外でもう一度自分の人生を考えるようになったというのです。迫害はありましたが、イエスを信じる者たちは飛躍的に増えました。

現在、ISISの活動は活発化しています。しかし、その中からも、そして難民のうちからも、かえって救われる人たちが起こされているようです。神の業は決してとどめられません。

私たちには何ができるでしょう。尋ねてみると、中東のキリスト者は言いました。「わたしたちの武器は三つしかありません。愛、赦し、祈りです。」

しかし、財産を奪い、暴力を振り、レイプし、親族を殺した相手をどうして愛せるのでしょうか。人にはできません。無理です。でも心の目を上に向けてみましょう。イエスの姿が見えてくるのです。イエスは迫害者たちをどのように見ているのでしょうか。そのまなざしは？

私の目にはイエスが彼らを愛し、赦し、とりなしているのが見えます。

今日、この主の心に、自分の心を寄せてみましょう。すべてはそこから始まるのです。